家庭といっしょに子育てを考える「保育クラブ」

子どもたちにいろいろな体験を

一人ひとりの子どもを大切に

少子化や核家族化がすすんで子ども同士でふれあう場が少なくなってきました。また、女性の社会参加が増え、「男は仕事、女は家事・育児」と性の違いで役割を分担することをしないで、いっしょに子育てをしていく“男女共同参画型”の子育ても増えています。子どもを育てる環境が大きく変化してきています。

「同じくらいの年齢の子どもと遊ばせたい」「毎日でなくていいけど、週1日だけは保育してほしい」「さまざまな遊びを体験させたい」など、いろいろな要望が小さな子どもを持つ家族から寄せられます。家庭だけで子育てをするのが難しくなってきています。

そのような声にできるだけこたえていこうというのが「保育クラブ」（対象は2～5歳児。毎日通ってきている「幼児グループ」の子どもたち（4・5歳児。2年間、火～金曜日））といっしょに、遊んだり、給食を食べたり、着替えをしたり――さまざまな“生活”を大切にした保育プログラムに楽しく参加して、元気に成長しています。

集団のなかでは、自分の思うようにならないこともでてきます。けんかもあります。「さっきは○○ちゃんが一番目だったから、こんどは私がさきね」と、待つことやゆずりあったり、相談しあったりして、人と人とのつながりが育っていきます。

自分以外の人がいること、すべてが自分の思いどおりにならないこと、人がなかよく暮らしていくにはルールが必要なこと――一人ひとりの子どもが、無理なく自然に経験がつめるように、家庭とのコミュニケーションをはかりながら、すすめています。

さまざまな“人”の存在を知る場

「今、子どもたちに人気のあるままごと遊びは“ファミレスごっこ”。だれかが訪ねてくる遊びをすると、トントンとドアをノックするのではなく、ピンポーンとチャイムの音。それもいろいろな音色になります。訪ねて来る人も近所の人などではなくて、多くは宅配便の配達人。題材となる生活の場面も社会の変化にあわせて変わってきています。全体的に、家族以外の人とふれあう機会が少なくなっているように思えます」と山田直子保育研究開発部長。

「保育クラブ」では、小学校5年生～中学生（夏休み期間のみ）のお兄さん、お姉さん、大学生や社会人のボランティア、子育てを終えた女性ボランティア、（こどもの城）の他部門のスタッフ――まわりにいる人たちの協力を得て、年齢も性別も異なる人と出会い、さまざまな“人”の存在を知る場にしています。

【写真の説明】（1）＝「にらめっこゲーム」。年齢の異なる3～5歳児の子どもたちが、大学生・社会人のボランティアをまじえて楽しみます。／（2）＝「ねえ、たくさんお買い物したから、もう帰りましょ」「子どもたちが待っているわ」。左の二人は、3歳児と5歳児の姉妹。なかよく遊んでいます。／（3）＝床一面に紙をひろげて造形活動。「ぼく、こんどはなに色にしようかな」「ぼくは小さい紙にかこうっと」。／（4）＝「もう食べちゃった」「大きなお兄さんは、いっぱい食べるね」。みんなで食べると、ごはんもおいしくなります。

（こどもの城）には、音楽遊び、造形遊び、パソコン遊びなどが楽しめる“遊び場”のほかに年間をとおして活動する体育や音楽などの講座・クラブの活動を行っています。「保育クラブ」もその一つで、会員制の保育プログラムです。2～5歳児とその家族を対象に、保育プログラム（曜日を決めて週に1回とか、必要におうじて子どもを受け入れる予約制のフリー保育）、家族プログラム、情報プログラムの3つを柱に家庭といっしょに子育てを考えています。「保育クラブ」の子どもたちの元気な活動のようすを紹介します。

“造形”や“音楽”などの体験も

保育室の床一面に紙をひろげて造形活動をすることもあります。どこまでも続く線をクレヨンで描いたり、手に直接絵の具をつけて描いたりしています。

「クレヨンをこんなふうに使ってみたら、こんな線ができた――実際になにかをしてみることで経験できること、そしてその経験をもとに、子ども自身が予想する力をはばひろく身につけることが、幼児期の造形活動の目的」と担当のスタッフ。子どもがどのような体験をしてきたのか、なにに興味をもったのかなどを大人は読み取ってほしいと話します。

造形や音楽などの活動も、子どもたちにとっては“人”や“もの”とのふれあいなどと同じ“経験・体験”、ひとつひとつ積み重ねていって、子どもたちがもっている力をのばし、豊かに育っていくようにしています。

【保育クラブ会員募集中】

平成15年度の「保育クラブ」会員を募集しています（2月20日まで）。保育プログラムのほか、家族（親子）そして家族同士のふれあいをはかる家族プログラム、保育相談や「保育クラブ通信」を配付する（年4回）情報プログラムなどを行っています。

くわしいことは、保育研究開発部（☎03-3797-5669）へ。

日本のふるさと弦楽器
ワークショップ&デモンストレーションライブ

“日本の音”の楽しさを実感

日本の音楽のおもしろさ、楽しさをさまざまな角度から体験する「日本の音楽シリーズ（2）ふるさと弦楽器　ワークショップ&デモンストレーションライブ」が、1月25・26日に青山円形劇場ほかで開かれました。

三線・かんから三線の金城実、ムックリの直川礼緒、長唄三味線の東音田島佳子、三味線・胡弓・ごったんの本條秀太郎――4人のみなさんによる、おはなしと楽器体験ワークショップをまじえた演奏（デモンストレーションライブ）に耳を傾けました。

ワークショップでは一人ひとりが楽器をもって演奏にチャレンジ。初めて“日本の音”に接した人も多いようでしたが、その楽しさ、すばらしさを実感したようでした。